

# 「平成 21 年度主任保育士研修会」研修報告

武雄地区 大崎保育園

岩 瀬 貴 子

日時：平成 21 年 7 月 23 日（木）～7 月 24 日（金）

会場：佐賀市・アバンセホール

主催：佐賀県保育会

後援：佐賀県

## 《日程》

### 1 日目

9：30 受付

10：00 開会

全国保育士会倫理綱領朗読（ 県保育士会副会長 中島美津代 ）

研修 1 「基調報告」 佐賀県保育会会長 田中豊博氏

挨拶 前衆議院議員 今村雅弘 氏

前衆議院議員 福岡資麿 氏

10：30 研修 2 「乳児が学ぶときー養護と教育の一体化とはー」

講師 東京家政大学ナースリールーム主任 井桁 容子 氏

12：00 昼食

13：00 研修 2 続き

16：00 解散

### 2 日目

10：00 受付

10：30 研修 3 「保育の個別計画について」

講師 神戸松陰女子学院大学教授 寺見 陽子 氏

12：00 昼食

13：00 研修 3 続き

16：00 閉会

司会者 鹿島地区 能古見保育園 石橋律子先生

記録者 武雄地区 大崎保育園 岩瀬貴子

受付 小城地区 芦刈保育園 松永奈緒子先生

研修1 基調報告 佐賀県保育会会長 田中豊博 氏

○九州大会は大変お疲れ様でした。

「すべての人が 子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」を大会の主題として熱心に研究協議することが出来ました。

○保育制度について（制度改革）

～これまでは、保育園に入所の場合、役場や市役所が窓口であったが、22年度からは役場や市役所が保護者に認定書（入園許可書）を渡し、保護者が直接、希望園に出向いて入園手続きをする。いろいろな問題も出てくる（競争が出てくる、人気のある園、ない園・・・）

（保育料滞納者の対応・・・）

先日九州ブロック各県代表が集まり素案をねり、要望書を作りました。8月17日には、また、保育団体3団体全部集めて内容を精査して少子化対策部会（厚労省）にぶっつけていこうと頑張っているところである。

○衆議院の解散

選挙の結果次第では（政権交代したら）大きく保育現場の状況が変わる。

- ・ 幼保一元化の道が出てくる可能性がある
- ・ 一般財源化（先生の給料が減る、運営費が狭まり維持費や修繕費等に係ってくる）  
もしくは利用料の値上げにつながることに・・・。

8月30日の投票日にはよく考えて保護者の方々にも伝えていってほしい。

これまで国会の保育議員として、支援してきた議員さんが又、国会で頑張って頂く様、我々の味方となってくれるようにと願っています。

挨拶 前衆議院議員 今村雅弘 氏

前衆議院議員 福岡資麿 氏

佐賀県立盲学校 教頭 荒木先生

佐賀県立盲学校の説明

視覚障害教育の相談や支援について

（小さいお子様（保育園）で視覚障害等の相談があれば是非利用して頂きたい。教育相談も受け付けています。）

研修2 「乳児が学ぶとき —養護と教育の一体性と保育者の役割—」  
講師 東京家政大学ナースリールーム主任 井桁 容子 氏

○近況

東京家政大学ナースリールーム（昭和42年開設された幼児の研究施設）で0, 1, 2歳児の子ども達と32年位一緒にいる。年間160人前後の実習生を受け入れ指導を行い、年々増加する他園の保育士の見学、実習も受け入れている。

今では、その当時（30年位前に担任した幼児）の親がナースリールームに尋ねて来てくれる・・・（子どもさんが大きくなった報告やボランティアやお手伝いに）

自分はこんなお母さん達に育ててもらったなあと感謝している。

- ・人は人によって育てられる
- ・人が育つ時は信頼されて育つ
- ・まわりの人からの支えがあつて今の自分がある

だから・・・私はこの時から、みんなのドラえもんになる！

絶対みんなが困った時には必ず助けるから！ と心に決める。

子どもの思いを言葉にして表現していこうと子ども達と約束。

## 1. あそびの捉え方

○人間の生まれながらに持つ能力への信頼（人間のあかちゃんだけが持っている能力）

- ・赤ちゃんが仰向けで寝れるのはなぜ？  
・・・目を合わせて人とコミュニケーションをとる為・・・
- ・赤ちゃんが無意識ににこっと笑うのはなぜ？（新生児微笑）  
・・・可愛いと思ってもらって養育する本能を呼び起こす為・・・

母乳を飲ませる時、四足の動物達はお母さんと目を合わせて飲まない。

人間の赤ちゃんだけは お母さんと目を合わせられる状態にある。

これもコミュニケーションをとる為・・・

★動物（犬や猫の喧嘩）は目を合わせる時は食うか食われるかの状態時、目をそらしたら負ける。

★人間は（生まれた時から目を合わせておっぱいを飲む行為から心地のいいもの、刺激をあたえてもらうものとしてとらえ）人と目を合わせるのは心地のいいもの、人と目を合わせてかかわることから人は育っていく。

★最近の若者の中には目を合わせるのが苦手、極端に避けている人が多くなってきているようだ。人間の危機？人間の特性を失いつつあるのでしょうか？

保育者としてどうですか？

- ・後ろから浴びせさせるような話し方はしていませんか？
- ・きちんと子ども達の目を見て思いをつなげるような係わりが出来ているのでしょうか？

お母さんの目をかくして口が笑っても赤ちゃんは笑わない。でも、  
お母さんの口をかくして目が笑うと赤ちゃんが笑う。  
目の（白と黒の）コントラストで赤ちゃんは注目するように出来ているから。

#### ○子どもの行為への保育者のまなざしの確認

- ◎視覚に左右されやすい大人たちは、見たいように見してしまう
- ◎そら目・・・自分によいように、自分が見たいようにみってしまう。

日本では

『百聞は一見にしかず』・・・百聞くより、一回見る方が確実に  
見ることが大変重要だということ（日本人は視覚を重要視）ですが、

欧米では

英語に直すとSEEING IS BELIEVE 見ることは信じること。  
見たいように見ってしまう、信じてしまう。 だから確かなことではないかもしれない・・・

だから私たち保育者は

- ・あの子ってだめな子よね・・・
- ・あんな先生はどうかしら・・・
- ・この保護者はどうしてこうなのかしら・・・

そんなことを言ってる人の目は正確か？

しっかりみていないのでは？

見たいように見ているのでは？

人間は常に周りの環境によって変わっている

人間は環境に合わせて変化していったる

なのに、経験年数を積んでいって

- ・あ～あ 子どもはね こうやるとよく食べるのよ。
- ・あ～あ こうして揺るとよく眠るわよ～。
- ・親なんてそんなものよ～。
- ・そうそうそうやっておくとおとなしいわよ。

と 経験で決め付けてしまう。

私達、保育者が常に新しい情報を得ながら、常に変わっていく子ども達に対応するには  
経験年数でとらわれたそら目を出来るだけ少なくする。よく見て、今、目の前にいる  
こどもを新しい目で見て、知りたがって、わかろうとする。

それが子どものプロセスに寄り添う発達過程を見通した保育となる。

経験で決め付けて こうだ という保育をしていると それには添えないことになる。

### ◎ぞうとくじらの会話

アフリカの像が乱獲でたった1頭（母親ゾウ）になった。究極の時に行くところ・・・  
断崖絶壁のところにいる。

そこでしろながすくじらとじっと目を合わせ、向い合わせて意思を通じ合わせている。

### ○いたずらの意味

いたずら・・・知的好奇心でやっているのとらえる人 と そうでないと思う人

- ・帽子に水を入れてあそぶのはいたずら？

帽子に水を入れてつばのところから水をたらす

・・・コップに水がたまり音がするしずくの存在を確かめてる・・・

これはいたずらですか？

帽子を水で濡らした時点で『駄目でしょう！！帽子はかぶるものでしょう！！』って

そら目の大人達が帽子とはこういうものだ決め付けてしまうと・・・

ここからは何もうまれない。

- ・いたずらは できる子とできない子がいるのは何故？

- いたずらできない子の中には

可哀想に自分のやりたい事をする前に、こんなことをするとお母さんが怒る  
だろうな、こんなことすると先生が・・・と考えると出来なくなってしまう。

おはようは？ ありがとう でしょう？ ごめんなさい でしょう？ と  
母親から言われた通りにしてる子は状況を正しく判断することより顔を伺う  
センサーになってしまっている。

日頃、大人の言うことを聞いて、顔色を見て、いい子をしている子ども達が  
「キレル」というのはそんなことの積み重ね。

- いたずらできる子は

いたずらをして、常に新しい情報にアンテナをはってて、危ないとか、  
今はやってはいけないとか、自分の五感でセンサーを働かせている。  
加減がわかっている。

乳幼児期とは育つ途中 今日育たなくてよい

## 2. 他者との関係性はどこで学ぶ？

★喧嘩をしないであそぶのは社会性か？

★KY（空気読まない）は子どもの特権 空気読めないは子どもの権利

子どもは本当の事を言うから子どもである。思った事をそのまま言わせなくては子ども時代を過ごしたとはいえない。空気は誰がつくるの？  
先生の顔色をみれる子は社会性ありますか？社会性って何ですか？

- ・子ども同士のトラブルを見て、どのように接するか
- ・「だめ、やめなさい、ごめんなさい」を言わない終わり方もある
- ・若者に無表情が増えたわけ

★保育者のことばは他者へのことばの手本になっているという自覚で使う

- ・やさしさは、やさしくされないと学べない
- ・内言語と外言語

★相手の思いに気づくには、解説者が必要

園内研修に参加して気づいたこと。発見したこと。 子ども達のほっぺた

ほっぺたがぶら下がってる（表情筋）→表情筋が動かない→嬉しい、悲しいがない→先生の言う通りに動いている

「ご飯です。絵本です。ブロックです。」と先生が設定した所に動かされている

みんなが先生の言うとおりに動いていて、喜ぶ間も びっくりする間も 感動する間もない。 表情筋を使わなくなっている。

みんな違っていいよ。みんな同じでなくていいのよ。みんな違ってあたりまえ。自分で気付かないと変わらないし、自分を振り向くと本当の保育に結びつく。

自己評価に

## ビデオ視聴

エピソードの中のトラブルに係る保育者の言葉に

- ◎だめ、ごめんなさい等 解決を急ぐ為の言葉がない
- ◎双方の気持ちを代弁する言葉が必ず含まれる
- ◎相手を傷つける行為のみ否定している
- ◎状況や行為の言語化で相互理解が出来る役割を果たしている

人との関係性が育つ為の保育の質とは

保育者が保育の中で起こるトラブルをその場しのぎの対応で終わらせず、又、子どもの育ちを急ぐことなく やがて成長するという、つながりのある展望をもって対応すること。

### 3. やってみたい、考えたい、工夫したい心はみんな持っている。

★わくわく、ドキドキが加減やがまんのところを育てる。

わくわく、ドキドキすることは興奮している状態で交感神経が優位な時。

★乳児が好んでやりたがる動きに注目・・・『スリッパ』『空き缶』

★何のために学ぶのか？

・パターンの生活は、保育者も子どもも思考停止状態

・同じことを繰り返す中に「わかる」がある

・おもしろいには訳がある

子どもが夢中になっている時には意味、訳がある、

繰り返し経験した中でわかってくる。

==子どもは見守るものではなく、見つけるもの==

子どもというものは誰かと比べるものではなく、見守るものでもない。

生きているものはみんなおもしろい、見つけるもの。

その子の魅力、いいところを見つける。

・ひらめきは、思いがけない組み合わせから

・みんな同じではなく、みんなちがっていないとだめ

子どもの傍にいる大人の一言は「どうでもいい話ではない」

とても大事な意味のある言葉として子どもは受け取る。

だから、子ども達が何を感じて何を考えている事かを、そら目や見間違える事があるかもしれないが・・・思い込まずにその子の今の思いをしっかりと見つめる事。

人はこくこくと変わっているので、見る側で（大人、保育者、お母さんも

子どもも環境も）違ってくる、だから正しく見極めなければならない。

見誤って、ふよいいなひと言につながると本当に人生を変えてしまうような事になり兼ねない。

### 4. 安心感と信頼感があそびをゆたかにする

★「アタッチメント」の本当の意味

愛着行動、だっこするとか思われているが・・・本当は不安、不快というようなネガティブな状況に（マイナスのことをゼロまでもどす）対応すること。

アタッチメントは子どもだけに限らない「ゆりかごからはかばまで」。つまり、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんにもアタッチメントは必要。

そうしないと人というのは自分の力をしっかりと発揮して生きていけない。

その子が何を今求めているかを正確に理解すること

このことが『子どもの最善の利益』につながる。

## ビデオ視聴

### 《理想の保育者・・・保育者がどう対応するか》

ビデオから

- ごめんなさいを言わない終わり方もある。「ごめんねを言わせるだけでは解決は出来ない」
- 子ども同士のトラブルは泣いている場面だけを見て判断してはいけない。  
それぞれの思いに耳を傾けることが大切。
- 子どもの思いと保育者の思いとをしっかりと向かい合わせる時間がとても重要。  
その場しのぎの解決で「ごめんね」を言わせてただけでは本当の意味での相手への  
思いやりは育たない。
- 経験したことで確かなものを確認していく、それが、育つということ。  
育つとはくっつけることではなく、経験が繋がってつながって変化をして確かなもの  
になって身に付いていく事である。
- 子どもは周りからもらった環境をためて使う、良い事も悪い事もためていつ  
つかう。子ども達が使っている言葉は身近な人が使っている言葉をつかっている。  
そこからも、先生方の自己評価が出来る。
- 子どもは優しくされてみないと優しくは出来ない。やさしくされた人にやさしくして返す。
- 子ども達が発信していることに気付いてあげないといけない。
- 子どもの気持ちを保育者は代弁し伝え、どのように認めていくか。

人間形成の基盤になる乳児期の人との関わりあいは、保育者がどのように受け止め  
保障していくかが、その育ちあいの質を決める重要な役割を果たしている。  
乳児一人一人がのびのびと自己発揮出来る環境を、自分の周囲の大人や仲間を肯定的に  
受け止められる人への信頼感が育つ環境を保障していく事が大切。それが、今求められる  
保育者の専門性といえる。

生き物はいきなり育たない。時間がかかってあたりまえ  
子どもも親も保育者も みんな 昨日、今日、明日の経験がつながって  
だんだん育つ、またはやがて育っていけばよい  
それぞれの育つ力を信頼して、待つという時間が  
生き物を良く育てる大切な栄養

(いげたようこ)